

第 83 回国際協同組合デー / 第 11 回国連協同組合国際デー

ICAメッセージ

2005 年 7 月 2 日

「マイクロファイナンスこそ我々の事業：貧困脱出に向けた協同」

資金や金融サービスへのアクセスは、貧困削減に欠かせないものです。マイクロクレジット(小額融資)または、より広義のマイクロファイナンス(小規模金融)は、貧困・低所得コミュニティが金融サービスを受けられるようにするためのひとつの方法です。マイクロファイナンスは、人びとの日常生活を変え、生活水準を高めるとともに、コミュニティに新しい活力を与えています。

今年は国連が定めた「国際マイクロクレジット年」です。同時に、これまで何世代にもわたって人々にマイクロファイナンスを提供してきた協同組合の役割を記念する年でもあります。協同組合のマイクロファイナンスに対する取り組みの基本は、自助の奨励です。自助は、貧困脱出に向けて協同することを可能にし、貧困に陥るのを防ぐことができます。

協同組合は、マイクロファイナンス機関としては最も成功を収めている組織のひとつです。特に貯蓄信用協同組合、協同組合・相互保険、協同組合銀行といった機関は、何百万人もの人々の自助を支え、より安全で持続可能な将来を築く手助けをしてきました。マイクロファイナンスは協同組合がここ 20 年ほどで始めたものではなく、1 世紀にわたる歴史があります。

貯蓄信用協同組合(または信用組合)は、フリードリッヒ・ライプハイゼンやヘルマン・シュルツェ・デーリチュといった地域の指導者らの手によって 19 世紀に誕生しました。その目的は都市や地方の小規模農家や職人の債務を減らし、貧困を削減する手段を提供することにあります。

今日、これらの組合は、世界のあらゆる地域で存続し努力を続け、さまざまな社会経済環境に適応してきました。先進国の協同組合銀行のなかには有力金融機関に成長した

ものもあります。実際、高所得国の多くでは、協同組合銀行が顧客に密着し、その地域に適した金融サービスを提供する幅広い支店網を有する唯一の金融機関であることも少なくありません。こうした協同組合銀行は、地域の現状を考慮しながら有利な金利を提供しています。

信用組合もまた、貧困・低所得コミュニティに持続可能な方法でマイクロファイナンスを提供できることを実証してきました。地域社会に根ざし、地元の人々によって運営されてきた協同組合は、金融資本が乏しいといった状況下でも、社会資本を活かすことができます。このほか、女性を対象としたマイクロクレジットで信用組合が果たしている役割は特筆に値します。金融サービスへのアクセスは、世界各地の女性たちが自ら小さな起業を始めることを可能にし、それによって家族の暮らしが改善し、子供たちを学校に通わせることができるようになり、医療サービスも受けられ、良質な住宅も手に入れることができるようになります。

信用組合は、送金者・受領者双方のニーズに合った金融サービスを提供しています。また公正かつ低コストな方法で家族が資金源にアクセスできるような送金制度の確立にも積極的に取り組んでいます。資金管理、貯蓄方法、起業計画における能力開発は、効果的で持続可能な協同組合的管理によるマイクロファイナンスに欠かせない基本要素であることも明らかになっています。

協同組合が運営するマイクロ・インシュアランス(小額保険)スキームでは、貸付保護、医療、生命、損害、葬儀に関する保険など、多岐にわたるサービスを提供しています。こうして協同組合は、低所得の組合員を守り、貧困に陥ることのないよう、組合員の財産を—たとえそれがどんなに小さなものであっても—守っているのです。

協同的運営を行うマイクロファイナンス機関は、貧しい人々が自ら資金を貯め、その資金を持続可能な将来に向けて生産的な投資や雇用創出に活かすことを可能にします。協同組合特有の社会的統制と民主的運営スタイルは、たとえ小額であっても貯蓄を可能にし、融資の返済が確実に行えるようにします。このようにして、協同組合は、低所得国であれ先進国であれ、生活水準の向上に向けて協働することを可能にする適切な資金面の解決策を人々に提供します。

7月2日土曜日、ICAは、協同組合が世界中の人々にマイクロファイナンスを提供してきた100年を超える歴史を誇りに思い、それを祝うことを世界中の協同組合に対し呼びかけます。